

洪浪波の時鐘高勢振きて火とやんとすれども先流焼盡かゝる
 法衡の角ひ一ち刀切二尺三寸程但七所うゑ彫物多き
 物性よ之を以て之くゝの房も櫃の中より出中に候て
 有る衆の内よりすし即ち之で甲の香燭匠を刀二尺五寸程
 但世所いふ年化りて是も櫃の中より出づなり

佐々木日記に、善提不煙之山醫王寺と云々、事後の山商に在
司取石塔在る云々、在石十間程隔て、次信忠信石塔在る
信長寺即古之杉田刑部在り、又越五寺之側石塔あり、其
内弘長寺より中句と斗見之、中句申同後、二侯の旗竿

竹毎年生甲申の信州に判官殿の父并弟の
年細紙金泥の上般若有り左の二候竹ハ次信忠信の旗
竿竹と云ふ生儲又は系世宗忠信ハ其母山ノ下都立所
あり信州輕井澤より居り一生終りけり此の當代事れ之
辰より羽衣山より信州輕井澤佐々忠信といふ者我ハ
佐々忠信の嫡孫なりといひて右條との次子物語しけり

近代信州ニ松本城主松田万石様平賀岐江氏等
義侍伝をとりて聞次信の石塔よりいひまゐる